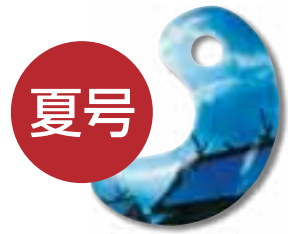


島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2013.JUL vol. 27



CONTENTS

2・3	(特集) 企画展「石見神楽」	4	館長通信
5	れきはく通信／学芸員通信		
6	まいぶんセンター通信		
7	古代セン通信	8	れきはくごよみ



神々の国しまね 【企画展】

石見神楽

舞を伝える
舞と生きる

IWAMI KAGURA
Pass on the Dancing,
Live with the Dancing



2013.7.12.Fri - 9.8.Sun
古代出雲歴史博物館

神々の国しまね

企画展「石見神楽 -舞を伝える、舞と生きる-」

開催期間 2013年7月12日(金)～9月8日(日) 会期中の休館日 8/20(火)

島根県石見地方は全国でも有数の神楽どころで、100を超える神楽団体の多くが盛んに活動を行なっています。神社のお祭り以外にも、各種イベントなどでも上演されており、地域で愛される存在となっています。

本展示では、石見各地に伝わる神楽の多様なすがたを紹介するとともに、産業としても成りたつ神楽道具の紹介、そして創作神楽や子ども神楽などを紹介します。

I 石見神楽の多様なすがた

石見神楽は各地に多様な芸態が伝わりとともに、県外にも伝播しています。広島県、山口県、北海道、ブラジルに伝わった神楽の歴史と内容を紹介します。



II 石見神楽のものづくり

石見神楽を特徴付ける代表的な道具として、神楽衣装、神楽面、提灯蛇胴の歴史と製作行程を紹介します。



III 舞を伝える、舞と生きる

現代における石見神楽の転機となった、昭和30～40年代。高度経済成長、大阪万博、過疎化などをとりあげ、その後盛んになる神楽共演大会、創作神楽、子ども神楽の様子を紹介します。



軽快なリズム、勇壮な舞、火を噴く大蛇（オロチ）、豪華絢爛な衣装が皆さんのイメージする石見神楽ではないでしょうか。実際、石見神楽を紹介するポスターやチラシには大蛇と戦うスサノオが描かれることが多いようです。現在の石見神楽は、視覚的な工夫が随所になされ、見るものにわかりやすくなっています。

この度の展覧会では、石見神楽がたどった歴史についてご覧いただきます。また、伝統芸能としての石見神楽の他に、観光資源として、神楽面や衣装づくりなど地元産業としての一面を持つ石見神楽、現在も新たに生み出されている創作神楽など、多岐にわたる石見神楽の姿を紹介します。本展覧会をご覧いただき、石見神楽を改めて見つめ直す機会となれば幸いです。

企画展 関連講座

◆7月27日(土) 「石見神楽はなぜ面白い - 石見神楽の特色 -」

講師：山路興造氏（民俗芸能学会代表理事）

◆8月24日(土) 「日本各地に根付いた石見神楽と提灯蛇胴」

講師：石山祥子氏（元島根県古代文化センター特任研究員）

○時間／13:30～15:00 ○定員／各100名（要申込） ○無料

○場所／古代出雲歴史博物館 講義室 ○申込方法／電話・FAX、ホームページのイベント参加フォームのいずれかでお申込みください。

企画展関連神楽公演

日 時：平成25年8月4日(日)・11日(日)・18日(日)

午後1:30～午後4:45（各回共）

公演場所：大社文化プレイス「うらら館」だんだんホール 入場無料

各回、申込が必要です。各回先着で600席

◆8月4日(日) 石西地区の神楽舞

【出演団体】

●柳神楽保持者会（津和野町柳村）島根県無形民俗文化財

石見神楽は明治以降、様々な改革により変化を遂げたが、旧来の神楽が石西には伝え継がれている。その代表が柳である。天蓋の下、たたみ二畳の範囲で舞うなど、古態を今に伝える。

●石見神楽保存会久城社中（益田市久城）益田市無形民俗文化財

式内社として、また近郷21か村の惣氏神として崇敬を集めてきた櫛代賀姫神社。その氏子たちによって受け継がれたてきた神楽で、殊に「双剣」は式年の大元祭でのみ演じられる秘伝の儀。

◆8月11日(日) 石東・邑智地区の神楽舞

【出演団体】

●^{すぎお}榎尾神楽団（邑南町市木）邑南町無形民俗文化財

榎尾はかつての「矢上舞」を継承する神楽団体の一つ。矢上舞は江戸時代後期、国境を越えて安芸北部に伝えられ、西部芸北神楽（山形舞）のルーツとなっている。

●土江子ども神楽団（大田市長久町）

土江は大屋の指導を受け、いわば親子関係の間柄。ドイツ・ヴェトナムでも賞賛された舞い振りは、子ども神楽とは思えない完成度。中学を卒業すると退団し、多くは大屋に入団する。

●大屋神楽社中（大田市大屋町）

石東の神楽は、出雲・奥飯石神楽をルーツとするものが多い。大屋もその一つで、〈塩清め〉や〈悪切〉、〈日御碕〉を有する。また新しい試みにも目を向け、石見銀山にちなむ演目を創作している。

◆8月18日(日) 石央地区の神楽舞with福岡ユタカ

【出演団体】

●浜田石見神楽社中選抜（オタケビ神楽団）福岡ユタカ&Yen Calling

浜田市の海岸部は、明治以降の神楽改革を常に先導してきた地域。「八調子」と呼ぶ急速なテンポと勇壮・華麗な舞、そしてスモークや照明を効果的に用いるなど、舞台効果抜群の演出を見せる。また、福岡ユタカ氏は浜田市出身で東京を拠点に活動するミュージシャン。石見神楽とのコラボレーションに取り組み、これまで東京や大阪でコラボ公演を成功させている。

.....

【申込方法】

●はがき、ファックス、ホームページのイベント参加フォーム、古代出雲歴史博物館にて直接、のいずれかでお申し込みください。

●記載にあたっては、①観覧希望の公演日（8月4日・8月11日・8月18日）、②郵便番号、③住所、④申込者氏名、⑤連絡先電話番号、⑥必要席数（1～4席）、をすべてご記入ください。

●お申し込み後、「入場整理券」を郵送します。当日、忘れずにお持ちください。

【お問合せ・お申し込み先】

島根県立古代出雲歴史博物館 〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4

TEL. 0853-53-8600 FAX. 0853-53-5350 <http://www.izm.ed.jp>

三大特別展を終えて

古代出雲歴史博物館 館長 玉串和代

古事記編纂1300年と出雲大社大遷宮を契機に、県では官民挙げて「神々の国しまねプロジェクト」を展開してきた。その一環として、当館では3つの特別展を開催した。

猛暑の開幕となった京都国立博物館「大出雲展」、天皇・皇后両陛下のご鑑賞も実現した東京国立博物館「出雲－聖地の至宝－展」、そして締めくくりは、60年ぶりの遷宮に合わせた「出雲大社展」。実に2か年に亘る一連の展覧会は、当館にとってさまざまな意味で、文字通り「特別な」展覧会となった。

裏話的にはなるが、元々当館で計画していたのは「出雲大社展」のみで、県外展はプロジェクトが動き出した平成21年度終盤になって、突如開催が決まったものであった。当時、プロジェクトを全体統括する部局にいた私は、県外展については、準備期間の短さや集客力に、一抹の不安を抱いたことを覚えている。

それから2年を経た平成24年4月、私は歴博勤務となった。皆が特別展の準備に忙殺される中、事業を引き継いだ私は、前任館長以下関係者のそれまでの尽力に報いるためにも、絶対に成功させたいと心に誓った。

結果は、3展全てで観覧者数、評価ともに良いもので、島根の歴史・文化を全国にアピールすることができたと思っている。とりわけ観覧者数は、目標を大幅に上回る記録的なものとなった。これは、手前味噌で恐縮ではあるが、訴求力のある展示品を通して質の高い展覧会となったことに加え、強力かつきめ細かな広報戦略も功を奏したと考えている。また背景には、古代出雲や出雲大社への関心の高まりがあるが、そこに至るまでには、県等で数年に亘って展開してきた、広報・情報発信の努力を見逃すことはできない。

この3つの特別展は、歴博に大きな財産を残した。日本最高峰の東博、京博との共催を通して、資料調査、開催手法、展示手法、文化財管理等で多くのことを学んだ。主催者各位と結んだ人的ネットワークも大きい。一方で、これまで歴博が積み上げてきた、地方館ならではの温かみのある館運営にも自信を深めたし、歴博自体の認知度も上がったと思っている。

開館7年目に入り特別展を終えた今、ある意味、歴博は第2ステージに入ったと考えている。全国的にも認識が高まりつつある島根の歴史・文化を、今後はどう深め、広めていくか？正解は見つかってないが、特別展での財産を糧に、さらに励んでいきたいと決意を新たにしている。



出雲大社展

展覧会	会期	会場	観覧者数 (目標)	展示アンケート
大出雲展	H24.7.28～9.9 (38日間)	京都国立博物館	79,218人 (5～6万人)	良い、まあまあ良い (88%)
出雲－聖地の至宝－展	H24.10.10～11.25 (41日間)	東京国立博物館	137,646人 (6万人)	とても良かった、良かった (79.7%)
出雲大社展	H25.4.12～6.16 (64日間)	古代出雲歴史博物館	79,556人 (4万人)	大変良かった、良かった (92%)

新規購入
資料紹介

紙本著色 尼子晴久画像

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 佐伯徳哉

賛文中の「天威心勢居士」は、この画像の主で出雲の戦国大名尼子晴久（1514～1560年）のことである。晴久は、父政久の早世により、祖父経久から尼子氏の家督を継承した。晴久は、周防の大内義隆が滅びると、1552年には、室町幕府から従来の出雲・隠岐に加え因幡・伯耆・備前・美作・備中の守護職に任ぜられ、中国地方最大の大名として最盛期を迎えた。しかし、最晩年期には、安芸の毛利氏の台頭によって政治的には劣勢に立たされる。

この画像は、戦前の『島根縣史』にも掲載されており、既に知られていた。また、かつて、この画像が尼子氏の後裔に伝世されたものであったことは、米原正義氏著『尼子一族』でも紹介されている。この画像を、このたび島根県が入手し収蔵することになった。

入手にあたっては、武家肖像画に詳しい、大阪城天守閣の北川央氏の所見もいただいたので、下記のとおりご紹介する。

肖像画は、通常は像主の菩提を弔うために作成されることから、本画像の作成時期は、晴久没年の永禄3（1560）年以降であろう。本絵図の賛者「前慈眼龍岳叟」は、伯耆国定光寺8世で、出雲国富田の桐岳寺の開山である龍岳である。その没年が文禄3（1594）年であることから、本画像も、それ以前に作成されたものであることが判明する。つまり、作成時期が晴久の没年をさほど下らないものであることが明確であるという点で、貴重である。※なお、本画像は、昨年開催の企画展「戦国大名尼子氏の興亡」の会期後半に展示。



法量：縦54.0cm×横27.0cm(本紙)

博学連携「出前講座」

古代出雲歴史博物館 主任研究員 伊藤徳広

古代出雲歴史博物館は展示や研究、資料の保管を行っていますが、その他に学校や各種団体との連携にも力を入れています。この連携の一つに「出前講座」があります。

出前講座は小中学校や高校、公民館などに当館の学芸員が出向き、歴史講話や古代体験で授業や講座のお手伝いを行うものです。この中でも4月から6月にかけて小学校から特に要望があるのが『大仏づくり』というプログラムです。東大寺の大仏を原寸大で描いたシートを組み立てるもので、単なるパネル組み立てにならないように、大仏の造り方や当時の人々の思いなども学びながら行っています。大仏についての質問コーナーもあり、大変好評なプログラムです。室内限定のプログラムですが、年間を通じて行っています。

出前講座で実施している古代体験は「大仏づくり」以外に、「勾玉づくり」「合金製和同開珎づくり」「プラスチック製銅鐸づくり」などがありますので、学芸部交流普及課までご相談下さい。



平成25年度の発掘調査

～石見東部の遺跡や重要古墳の発掘調査～

埋蔵文化財調査センターでは、毎年、高速道路建設や河川改修などの開発事業に先立って数多くの遺跡の発掘調査を実施しています。そのほか、県内の重要な古墳の規模や詳しい内容を確認するための調査も行っています。

今年度は、主に以下の遺跡の発掘調査を実施する計画です。

調査事業	遺跡名	所在地	年代	遺跡の内容	調査予定期間
一般国道9号 朝山大田道路建設 に伴う発掘調査	鈴見B遺跡	大田市久手町	古墳時代～ 奈良時代	旧波根湖南岸の丘陵地に位置する古墳時代後期から古代にかけての集落遺跡	5月～9月
	中尾H遺跡	大田市久手町	縄文時代～ 近世	平成22年度の発掘調査では、川跡から縄文時代から近世にかけての土器や石器、木製品などの多彩な遺物が出土	5月～8月
	旭山遺跡	大田市波根町	古墳時代～ 中世	中世の山城「旭山城跡」の麓に位置する集落遺跡	9月～12月
一般国道9号 静間仁摩道路建設 に伴う発掘調査	古屋敷遺跡	大田市仁摩町	縄文時代～ 中世	潮川左岸の水田部に位置する複合遺跡。集落跡や水田、多彩な遺物が出土	5月～12月
	城乃内遺跡	大田市仁摩町	奈良時代～ 中世	日本海から約2km続く谷の一番奥に位置する集落遺跡	10月～12月
大橋川拡幅に伴う 発掘調査	灘遺跡	松江市矢田町	奈良時代～ 近世	大橋川の「矢田の渡し」近くに位置する、古代から近世にかけての遺物散布地	6月～11月
国道432号 大庭バイパス建設 に伴う発掘調査	茶臼遺跡	松江市大庭町	弥生時代～ 奈良時代	国指定史跡「大庭鶏塚」古墳の近くに位置する遺物散布地	6月～11月
考古資料基礎調査 研究(墓制調査)	古天神古墳	松江市大草町	古墳時代後期	県指定史跡の全長27mの前方後方墳。主体部は出雲東部に特徴的な石棺式石室	6～7月
	魚見塚古墳	松江市朝酌町	古墳時代後期	全長約62m、出雲東部で最大級の前方後円墳。昨年度は出雲型子持壺が出土	9～11月
	東淵寺古墳	松江市大庭町	古墳時代後期	全長約62m、出雲東部で最大級の前方後円墳。昨年度は埴輪や出雲型子持壺が出土	10月

これらの遺跡の調査成果については、発掘調査現地説明会やリーフレットなどで随時お知らせします。島根の古代の様相を解明する新発見にご期待ください。



古天神古墳(前方部より)

鰐淵寺を中心とする山陰密教寺院の研究

島根県古代文化センター 主任研究員 中野賢治

出雲市の鰐淵寺は、出雲国きっての古刹として全国的に非常に著名です。また仏像や古文書など、古代以来の貴重な寺宝を数多く伝えていることでもよく知られています。古代文化センターでは、中世の鰐淵寺に関するテーマ研究を進めています。



摩尼寺本堂



三仏寺投入堂

今回のテーマ研究での切り口の一つに、鰐淵寺が山陰地方の、あるいは全国の寺院のなかでどのような位置にあったかというものがあります。言い換えれば、鰐淵寺が持っていた地域的、宗教的なネットワークをとらえようとするものです。

非常に有名な史料ですが、後白河法皇が当時の流行歌である今様をまとめた『梁塵秘抄』でも、「聖の住所はどこどこぞ、箕面よ勝尾よ、播磨なる書写の山、出雲の鰐淵や日の御碕、南は熊野の那智とかや」というように、鰐淵寺は勝尾寺（大阪府箕面市）、円教寺（書写山、兵庫県姫路市）、日御碕神社、熊野那智大社（和歌山県那智勝浦町）などとならぶ「聖の住所」、すなわち山岳修験者のよりどころとしてうたわれ、人々に広く知られていました。山陰地方では、鳥取県の摩尼寺や投入堂で有名な三仏寺なども天台宗の古刹として知られていますが、これらの寺院は山岳修験の霊場としての性格を持ち、慈覚大師円仁に関する伝承を伝えるなど、鰐淵寺と共通する特徴もみられます。こうした霊場・寺院を行き来する人々については、なかなかその足取りを追うことがで

きませんが、ここに修験者や僧侶たちによるネットワークがあったことは想定してもよいかもしれません。

一方、具体的な足跡が追える人物として、石見国三隅出身の然阿良忠（1199～1287）があげられます。良忠は鰐淵寺で修行したのち延暦寺に入り、九州に下って弁長の弟子となりました。弁長は法然の後継者の一人として、現在の浄土宗につながる流れをつくった人物です。良忠はその弁長の後をうけ、浄土宗の第三祖として、鎌倉を拠点に活動しました。現在の光明寺（神奈川県鎌倉市）はこの良忠が開山となったと伝えています。また良忠は数多くの著作を残したことから「記主禅師」とも呼ばれています。宗派は違えど、良忠の著作の背景となった仏教教学に対する膨大な知識も、鰐淵寺など天台寺院での修行時代に学んだものが根底にあったと考えられます。なお出身地である三隅には、明治になってからその名を冠した良忠寺が建てられ、今に至るまで人々の尊崇を集めていることも注目されます。

こうした人々の動きを追うことで、中世という時代に鰐淵寺が置かれていた立場、鰐淵寺が果たした役割の一端に迫ってこうと考えています。



光明寺本堂



良忠寺本堂

夏のイベントのご紹介

れきはく夏まつり ー体験・探検楽ー

2013年7月28日(日)

体験楽

● 勾玉作り

大人気の勾玉作り体験!

場所/駐輪場 時間/10:00~15:00

定員/先着100名 参加費/300円

● 藍染+灯ろう (要事前申込み)

ハンカチの藍染体験+藍染ハンカチを使って灯ろうづくり
(ハンカチの藍染のみの体験可)

場所/体験工房定員/各回24名

時間/10:00~12:00、13:30~15:30

参加費/650円 (藍染のみ 150円、灯ろうキット 500円)

電話・FAX・ホームページの参加フォームにて受付。

定員となり次第、締切とさせていただきます。

● 古代衣装・神楽巫女舞衣装

古代衣装や巫女舞衣装を着て記念撮影!

時間/10:00~12:00、13:00~15:00

探検楽

● バックヤードツアー

博物館の裏側探検! 学芸員が博物館の裏側を案内します。

集合場所/情報交流室

時間/10:00・11:00・13:00・14:00

所要時間/50分

巡館楽

● ぎんぐらスタンプラリー

6月29日~9月29日 参加無料

「サヒメル」「石見銀山世界遺産センター」「歴博」を巡るスタンプラリー

● ブロンズスタンプラリー

7月12日~9月9日 参加無料

「加茂岩倉遺跡ガイドス」「荒神谷博物館」「出雲弥生の森博物館」「歴博」を巡るクイズラリー 詳しくは各館HPまたはチラシで



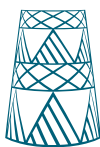
エントランスホールに「島根の神楽」コーナー設置

企画展「石見神楽」の開催にあわせ、エントランスホールに「島根の神楽」コーナーを作ります。

石見・隠岐・出雲各地域で開催される神楽公演の案内チラシやポスターを設置、中央ロビーには提灯蛇胴2体も展示します。記念撮影もできますので、企画展とあわせてご覧ください。



発行/平成25年7月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん